アリストテレス全集

13

アリストテレス全集 13

ニコマコス倫理学

加藤信朗訳

岩波書店

アリストテレス全集 13　　第17回配本（全17巻）

1973年4月28日　発行 ©

¥1800

訳　者　加藤信朗

発行者　岩波雄二郎

東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
発行所　株式会社 岩波書店

落丁・乱丁本はお取替いたします　　精興社印刷・牧製本

凡　例

一　この翻訳の底本としては、バイウォーターの校訂による原典 *Aristotelis Ethica Nicomachea*, Recognovit brevique adnotatione critica instruxit I. Bywater, Oxford, 1894 を使用した。

一　参照した他の校訂本については巻末の訳者解説の末尾に記し、バイウォーターの読みと異なる読みを取った場合には、訳者註のその箇所に記した。

一　本文中の（　）や――は、原文の文脈を分り易くするため、バイウォーターの用いたものに倣ったものであるが、その使用箇所については必ずしもバイウォーターのものによらず、訳者の解釈に従ったものも少なくない。（　）が本文の内容に直接関係するが文脈から離れる説明、――が本文の内容からやや離れる自由な補足説明、または、文脈に飛躍のある箇所を示すものであることは一般の使用例に準ずる。

一　……は原文に脱落があると信じられる箇所である。

一　〔　〕は、原文にはないが、原文の理解のために、挿入された訳者の補訳である。ただ、訳文の流れを保つため、〔　〕を用いずに自由に補って訳した箇所も少なくない。また、訳文だけから文意が取れるように、本来、註に記すべき説明を〔　〕のなかに記したものもある。

一　【　】は原文にあるが、削除するのが適当と判断される部分である。

一　行間の（　）の和数字はオックスフォード・ベッカー版の節番号を、洋数字は訳者註の番号を示す。

一　翻訳、訳者註、解説にあたって底本の他に参照した文献の主なものは、巻末の訳者解説の末尾に一括してあげた。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　次

凡　例
本文の内容目次
第一巻……三
第二巻……三九
第三巻……六四
第四巻……一〇六
第五巻……一四三
第六巻……一八三
第七巻……二〇九
第八巻……二五〇
第九巻……二八八

第十巻……三三
訳者註……三五九
訳者解説……四五
主要訳語表
索引

本文の内容目次

A　総論　最高善について

第一巻

I　序　論

第一章　行為と目的、目的の種別、目的相互間の従属関係について。……三
第二章　最高善について。最高善の探究は政治術に属すること。……四
第三章　論述の仕方および相応しい聴講者について。……五

II　最高善についての諸説

第四章　諸説の提示。ふたたび、論述の仕方および相応しい聴講者について。……七
第五章　諸説の検討、〔一〕三種の生活について。……九
第六章　同、〔二〕一般者としての善について（イデア論批判）。……一一

III　最高善の定義の試み

第七章　幸福が最高善であること。幸福とは何か。三たび、論述の仕方について。……一六
第八章　この定義と諸説との一致。結語（幸福は最善、最美、最快であること）。幸福

と外的な善。……二
Ⅳ　幸福と幸運
第九章　幸福はいかにして得られるか。……二五
第十章　ソロンの言葉をめぐる問題。……二七
第十一章　同、子孫のうける偶運。……三一
第十二章　賞讃されるべきものと尊敬されるべきもの。……三三
B　各論　器量について
Ⅰ　序論
第十三章　人間の器量とは何か。魂の諸部分について。……三四
Ⅱ　人柄としての器量
第二巻
i　人柄としての器量はいかにして得られるか
第一章　習慣と人柄。人柄と行為。……三九
第二章　「まっとうな分別にしたがって行なう」という原則。過剰と不足と中間について。……四二
第三章　過・不足と中間は情と行為のうちにあらわれること。器量と悪徳は情と行為、

ことに快苦の情にかかわること。……四四
第四章　行為と性向。行為を構成する種々な要素について。……四七
ii　人柄としての器量の定義の試み
第五章　人柄としての器量は一つの性向であること。……四九
第六章　人柄としての器量は情と行為における中間を保つ性向であること。「事物における中間」と「われわれに対する中間」について。……五〇
第七章　人柄としての器量のさまざま(徳目一覧表)。……五五
第八章　中間と両端(過・不足)の間の相反関係について。……五九
第九章　どのようにする時、中間が得られやすいかに関する実際上の勧告。……六一

第三巻

iii　行為を構成する諸要素

第一章　本意と不本意。……六四
第二章　選択について。……七〇
第三章　思案について。……七三
第四章　願望について。……七八
第五章　「本意からの悪人はない」というパラドクスをめぐる諸問題。……七九

第六章 勇気について。……八六
第七章 同。……八八
第八章 同。……九一
第九章 同。……九六
第十章 節制について。……九七
第十一章 同。……一〇〇
第十二章 同。……一〇三

第四巻

第一章 もの惜しみしない心の宏さについて。……一〇六
第二章 豪気について。……一一五
第三章 高邁について。……一二〇
第四章 功名心について。……一二八
第五章 温和について。……一二九
第六章 情愛について。……一三三
第七章 真実について。……一三五

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第八章　機知について。……一三八
第九章　恥じらいについて。……一四〇

第五巻

v　正義の性向について

イ　序　論

第一章　正義の性向と正しさと正しいひと、不正の性向と不正と不正なひとについて。
　器量の全体としての正義の性向と悪徳の全体としての不正の性向について。……一四三
第二章　器量の部分としての正義の性向と悪徳の部分としての不正の性向について。……一四八

ロ　種々な正しさ

第三章　配分的な正しさについて。……一五一
第四章　規制的な正しさについて。……一五四
第五章　応報としての正しさについて。……一五七

ハ　ポリスにおける正しさ

第六章　ポリスにおける正しさについて。……一六三
第七章　同、自然による正しさと法律による正しさ。……一六五

ニ　不正の行為をめぐる諸問題

第八章　不正の行為の成立要件としての本意と不本意、選択と非選択。そこから帰結する結果としての加害行為の三種。……一六七
第九章　「不正の行為をされること」および「不正の行為をすること」にかかわる諸問題。……一七一
ホ　正義の性向と公平な性向
第十章　公平な性向と公平なひとについて。……一七七
ヘ　不正の行為をめぐる諸問題(続)
第十一章　自分自身に対する不正の行為がありうるか。……一七九

第六巻

Ⅲ　思考の働きとしての器量

i　序　論
第一章　「まっとうな分別」とは何か。その標石は何か。魂の分別をもつ部分における二部分、「学問認識をする部分」と「分別をめぐらす部分」について。……一八三
第二章　行為にかかわる思考の働きにおける真実について。……一八五
ii　理性的な部分の器量と認められているもの、五種の検討
第三章　学問について。……一八七
第四章　技術について。……一八八

第五章　賢慮について。……一八九
第六章　直観について。……一九一
第七章　知慧について。結論(理性的な二部分の器量である賢慮と知慧について)。……一九二
第八章　賢慮と政治術。……一九五

iii　賢慮に関係ある種々な理性的な器量について

第九章　思慮深さについて。……一九七
第十章　弁えについて。……二〇〇
第十一章　洞察について。……二〇一
第十二章　賢慮の効用と才覚について。……二〇三

iv　結　論

第十三章　自然的な器量と本来の意味における器量。人柄としての器量と才覚と賢慮の関係。……二〇六

第七巻

IV　抑制と無抑制

第一章　序、人柄において避けるべきものの三種、悪徳と無抑制と獣性について。探究の方法。抑制と無抑制に関する常識的見解の提示。……二〇九

第二章　難点の指摘。……二一
第三章　難点の解明、〔一〕いかなる意味で無抑制はありうるか。……二一五
第四章　同、〔二〕抑制と無抑制は何についてありうるか。……二二〇
第五章　獣性、すなわち、転義による無抑制について。……二二三
第六章　激情にかかわる無抑制と欲望にかかわる無抑制。……二二五
第七章　惰弱なひと、軟弱なひとと我慢強いひと。無抑制の二種、そそっかしさと弱さについて。……二二八
第八章　無抑制とふしだら。……二三二
第九章　抑制あるひとと頑固なひと、快楽を知らないひと、節制あるひとの違い。……二三四
第十章　無抑制と賢慮、無抑制と才覚。……二三六

V　快楽について

第十一章　序、快楽の研究について。快楽についての諸説。……二三八
第十二章　快楽は善ではないとする説の吟味。……二四〇
第十三章　快楽は最高善ではないとする説の吟味。……二四三
第十四章　或る種の快楽が善ではないとする説の吟味。何故、ひとは過剰な肉体の快楽を追求する傾向をもつか。……二四六

第八巻

VI 愛について

i 序論

第一章　器量と愛。愛は必要不可欠なものであると共に、美しいものでもあること。愛についての諸説。……二五〇

ii 動機によって区別される三種の愛

第二章　愛の三つの動機(善いもの、快いもの、有用なもの)。愛と好意。……二五二

第三章　三種の愛について。……二五四

第四章　同。……二五八

第五章　愛の関係と愛の行ないおよび愛情。……二六一

第六章　三種の愛の相互関係について。……二六三

iii 一方の優越にもとづく愛の諸形態

第七章　一方の優越にもとづく愛の関係は比例による等しさによって保たれること。愛における等しさと正しい行為における等しさの違いについて。……二六六

第八章　愛されることと愛すること。……二六八

iv 共同体における愛

第九章　愛と正しさ。種々の共同体における愛の種々。……二七一

第十章　ポリスの政体の三形態。……二七三

第十一章　これらの政体に見出される愛の諸形態。……二七六
第十二章　同族間の愛の諸形態。……二七八

v　愛の関係の維持と解消

第十三章　どのような時、愛の関係のうちに不平が生ずるか。〔一〕等しい友の間において。……二八一
第十四章　同、〔二〕優越関係による友の間において。……二八五

第九巻

第一章　同、〔三〕異種の愛の混合した関係において。……二八八
第二章　錯綜した愛の関係においてひとはいかに行為すべきか。……二九一
第三章　どのような時、愛の関係を解消すべきか。……二九四

VII　自　愛

第四章　愛の特徴は自分自身に対する関係から由来すること。……二九七
第五章　愛と好意。……三〇〇
第六章　愛と和合。……三〇二
第七章　恩恵を施すひとは何故自分が恩恵を施す相手を愛するのか（自己の存在と活動）。……三〇四
第八章　真の自愛について。……三〇七

VIII　友の必要

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com